

**韓国における社会福祉教育の現状と課題**  
柳 淇馨(釜山大学・韓国社会福祉学会 会長)

**1. はじめに**

多様な福祉問題に対するニーズを充足させるため、社会福祉サービスの領域はより細分化・専門化されてきている。一方、韓国では、最近年間3万人以上の学生が多様な教育機関から輩出され、社会福祉マンパワーの急激な増加がみられる。

このような社会福祉マンパワーの過剰な供給と需要の間での不一致さとともに、社会福祉教育の質と実習教育の不適切さが社会問題として浮かび上がっている。また、他の学問の領域においても、類似職種の出現あるいは、社会福祉の類似資格の出現、法的根拠がない民間団体の資格の出現などにより、韓国社会の社会福祉に対する専門性とアイデンティティを脅かされている。

したがって、社会福祉専門職は社会福祉領域の専門性を明確にし、競争力を確保していく必要性が提起されている。ここでは、社会福祉教育の現状と課題について述べることで、適した対策を模索する。

**2. 現状**

社会福祉教育機関は、総439ヶ所で、大学(2年制、4年制)が52%、大学院が44%、遠隔大学が4%で構成されている。入学定員は、約3万8千人で、大学(2年制、4年制)が60%、大学院が22%、遠隔大学が2%を占めている。

〈 全国社会福祉教育機関の現状(2007年)及び年度別機関数 〉

区分(2007年) /年度	社会福祉 (事業)学科・ 専攻開設数	関連専攻 学科・ 専攻 開設数	学科・ 専攻合計	教育機関 数	入学定員 (人)	2001年	2003年	2007年
専門大学(80)	51	60	111	80	9,961	55	78	80
大学(149)	116	93	209	149	12,682	93	110	149
大学院 (194)	一般	10	61	58	1,619	16	26	58
	特殊	81	171	125	6,365	45	51	125
	専門	16	24	11	188	-	-	11
遠隔大学 (16)	2年制	6	8	2	930	-	2	2
	4年制	12	25	14	6,120	-	11	14
총계	331	278	609	439	37,865	209	278	439

資料：韓国社会福祉士協会. 2007.

※ 社会福祉学の教育課程が開設されている生涯学習機関である204ヶ所は除く

**大学における社会福祉科目の開設現況**

大学1ヶ所あたり平均10の科目が開設されている。主に、高齢者、児童、障害者分野から構成されているが、資格取得のための科目が主である。その他の専攻科目の開設比率は、大学に比べ、専門大学(2年制)が

より低い(現在、社会福祉士2級の取得のため、韓国の社会福祉教育協議会では4年制大学の社会福祉学科で、専攻の必修科目を10科目、選択科目を4科目以上履修するように提示している。

### **社会福祉教育の実態**

社会福祉教育機関の急速な増加により専任教員の不足、過剰な受講定員、複数専攻者の増加、カリキュラムの非標準化、学会及び現場の連携不足などの問題が発生している。

## **3. 課題**

### **教育需要の過剰**

韓国では社会福祉サービスに対する需要増大と資格取得の容易さなどから、多量の学生を募集している。しかし、サービス産業に対する予測と学生の卒業後の就職の対策がないまま学生募集がおこなわれている。学生定員(潜在的労働供給量)の統制と教育の質が管理されていない。また、今はこのような量的な統制はできない現状である。なお、このような役割を担当する機関も機能を果たしていない(保健福祉家族部、韓国社会福祉士協会、韓国社会福祉教育協議会など)。

### **社会福祉労働力の質の低下**

教育の需要過剰は教育にあたる人材の不足、教育課程の水準を低下させるなど、教育の質を低下することとなると同時に、社会福祉労働の質的な低下につながる事が予想される。

実際、社会福祉専攻者でない者が教育している機関も15%程度存在している(専任教員の不足、過剰な受講人員及び複数専攻者、カリキュラムの非標準化、学会・現場との連携不足が専攻教育の問題として指摘されている)。

社会福祉労働力の過剰は社会福祉労働市場で、一部の学生のみが就職できることになることを意味する。供給者側からみると、優秀な人材が選べるというメリットとなるが、このまま放置しておく、内部の労働市場管理(訓練および、再教育、進級体系の強化、補償体系および厚生福祉の側面)が十分でないのに、放置される恐れがある。このような状態になると、社会福祉は低級の労働というふう認識され、高級人材が残らず、優秀な人材が入ってこない悪循環が避けられない。

### **長短期的な社会福祉労働力の需要に対する予測の不備**

教育需要の過剰とそれに伴う社会福祉労働力の過剰供給は、長短期的な社会福祉労働力需要に対する予測の不備がその原因である。韓国社会の社会福祉サービス需要の増加に対する漠然とした期待とサービス需要に対する政府と民間の体系的な政策的対応、すなわち、需要予測がなされないまま教育機関の設立が行われ、教育需要の増加をもたらした。

## **4. 社会福祉の教育と関わる主な議論**

### **社会福祉士の補修教育の法案の整備**

社会福祉法人あるいは施設で従事する社会福祉士は補修教育を受けるべきで、所属する機関は補修教育を支援すべきであるという内容の法案を整備(2007年12月14日新設、2009年1月1日から施行:社会福祉事業法第13条第2項新設)した。

### **社会福祉教育の内実化**

必修科目を10から12へ増やす方向へ検討(選択科目の増設も検討)するとともに、韓国社会福祉教育協議会が示す『社会福祉学教科目ガイドライン』に合った教育(社会福祉教育課程の標準化)が行われるように検討する。

### **社会福祉教育プログラムの認証制の準備**

社会福祉教育協議会が中心となり、全国の社会福祉専攻教育(2年制、4年制)プログラムを調査中である。また、社会福祉教育協議会の下に、認証と評価に必要な委員会を構成し今後の認証課程に対する準備をしている。

(訳: Seoul Cyber University 老人福祉学科 李栖瑛)